

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月11日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670600164号		
法人名	有限会社 花		
事業所名	ふれあいホーム 花		
所在地	鹿児島県 阿久根市 西目 6 2 8 3 番 2 (電 話) 0996-72-7171		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年6月2日	評価確定日	平成21年6月27日

【情報提供票より】 (平成 21年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3 月 3 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 2人 非常勤 8人	常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	有 (円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (5 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	若松記念病院・阿久根市民病院・門松医院・久木田歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

庭続きの畑に野菜や花が植えられており、玄関ホールには季節の花が生けられ、掃除の行き届いた家庭的で落ち着いた雰囲気のあるホームである。管理者・職員は理念に沿って入居者に優しく・温かく・楽しく支援し、地域住民とのふれあいを大切に、一人ひとりを尊重したケアを実践している。職員の研修や勉強会も計画的に実施し、サービスの質向上に努めている。職員のチームワークもよく、入居者は明るい笑顔で屈託なく過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	同業者との交流については、地区のグループホーム協議会での勉強会や交流の機会も有り、相互訪問の取り組みをして改善している。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は評価の意義を理解し、職員全員で評価に取り組み、改善点を具体的に話し合い、ホームのサービスの質向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	多くの委員の参加を得て、定期的開催している。地域との付き合いなど運営推進会議で話し合い、委員の意見や協力で、地域との交流が盛んになり、運営に活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会や運営推進会議に家族の参加をもらい、意見や苦情を表せる機会を設けている。電話や面会時にも意見や要望を聞き、職員や関係者で話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、自治会や地区の行事や奉仕作業に参加している。中学生の体験学習なども受け入れ地域住民との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を考え、地域とのふれあいを大切に、入居者がその人らしく暮らしつつけらることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	分かり易い理念を、いつでもケアのあり方を振り返られる様にして、リビングや事務所・トイレなどに掲示している。毎月の勉強会でも話し合い、理念を共有できており、管理者と職員は日々その実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、自治会や地区の行事・奉仕作業等に参加している。中学生の体験学習なども受け入れ、地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解し、スタッフ全員で評価に取り組み、改善点を話し合い、ホームのサービスの質向上に活かすよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多くの委員の参加を得て定期的開催している。地域との交流などについて会議で話し合い、地域との連携や協力体制が充実し、サービスの向上に活かされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者から日頃より相談や助言をもらう等、連携を図っており、サービスの質向上に取り組んでいる。社会福祉協議会とも勉強会の講師を依頼するなど協力関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らし振りや健康状態、金銭管理などは、家族の面会時や電話等で個々に報告している。ホーム便りを季節毎に発行し、送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議に家族の参加をもらい、意見や苦情を表せる機会を設けている。電話や面会時にも意見や要望を聞き、職員や関係者と話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、入居者への影響に配慮し、離職者を出さないようマニュアル作成や教育・研修などに努めている。昨年度は離職者はいない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地区のグループホーム協議会やホーム内での勉強会など計画的に実施し、知識や技術の向上に取り組んでいる。資格取得も積極的に勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に参加し、勉強会や交流の機会がある。情報交換や花見を合同で実施するなど交流の機会を作り、ともに向上させていく取り組みをしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、自宅を訪問したり見学を勧めている。入居希望の待機者には、行事の時など案内し一緒にお茶を飲む等、ホームや雰囲気徐々に馴染めるよう工夫している。入居後も家族と相談して自宅訪問など支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を尊重し、それぞれの生活歴などを活かし、畑仕事や梅干し・ジャム・味噌作りなど経験を生かして貰っている。家族的な雰囲気支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、入居者の思いや意向を聞くように努め、困難な場合は家族からの聞き取りや、様子や表情で把握するよう努めている。本人本位に実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意向を聞き、主治医や関係者・経過記録・担当者の意見を基に話し合い、入居者にとってより良いケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	更新時や状態変化時に評価を行い、本人・家族・関係者の意見を参考にスタッフと話し合い介護計画を見直している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員として看護師を配置し、医療連携体制がある。家族と相談し、通院介助や病院受診・自宅訪問・買い物等を柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。月1回の往診や臨機応変な病院受診などにより。適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や主治医・スタッフで話し合い、協力し合って、終末期の利用者の看取りを行った事例もある。		重度化や終末期のあり方について、ホームで対応できるケアの方針を決め、文書化して関係者で方針を共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個性を尊重し、それぞれに合った言葉かけや対応を支援している。記録の保管や守秘義務などは採用時に誓約者を交わし個人情報の確保を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事時間・掃除・洗濯・畑・散歩など、その日の過ごし方は、入居者の希望やペースを尊重して支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう配慮し、下ごしらえや盛り付け・配膳・下膳などしてもらっている。ランチョンマットやお箸・茶碗など食事の準備をいっしょに行っている。外食に行く事もあり、食事を楽しむことができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間は基本的には決めているが、希望を取り入れたり体調やタイミングを見て支援している。無理強いせず、入浴を楽しめるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や洗濯物干し・洗濯物たたみ・掃除等役割を持ってもらっている。レクリエーションやカラオケ・テレビ観賞などの楽しみや、花見やドライブなど気晴らしも支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の庭や畑の散策、同行しての散歩など希望に添って支援している。芝生でのお花見会など実施したり、買い物やドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全に配慮し、玄関は外からは開くが、中からは2箇所タッチによる開錠になっている。見守りや連携プレーで入居者への配慮を行なっている。リビングや談話室から外が眺められ、入居者のストレスへの配慮が感じられる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼間・夜間想定で避難訓練や消火訓練を実施している。運営推進会議委員の協力もある。災害に備え水や食糧品など準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取状況のチェックをし、記録している。栄養バランスについて協力病院の栄養士のアドバイスを受けている。刻みやとろみ食など一人ひとりの状態に合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花が生けてあり、リビングの窓は大きく、外の景色も見えて明るい。談話室や玄関ホールにテーブルや椅子があり、ゆっくりくつろげる。スタッフの声なども不快にならないよう配慮がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや椅子を持ち込み、本人や家族の写真など飾り、入居者が安心して過ごせるよう工夫している。入居者と一緒に掃除を行っており、清潔な環境を整えている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。